

事業所名

児童発達支援
カラフル・ピース

支援プログラム(参考様式)

作成日

2024 年

4 月

1 日

(別添資料1)

法人(事業所)理念		・利用者が日常生活における基本的又は応用的な生活技能等を習得すること、及び集団生活に適応することができるよう、利用者の身体及び精神の状況並びにその置かれている環境に応じて、適切かつ効果的な支援を行う ・利用者の意思及び人格を尊重して、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める												
支援方針		・身辺処理、個別課題、自立課題、遊びなどの活動を組み合わせたスケジュールの流れに沿って、お子さんへの日常生活における基本動作、コミュニケーションスキルの獲得を、そして個人にわかりやすい方法を用いて行う ・小さなお子さんは親子で一緒に通所していただき、お子さんへの声掛けの様子や接し方、遊びの様子などを実際に見ていただきながら、お子さんとの関わり方についてお伝えする。成長に伴い、個々のお子さんの発達に合わせて小集団の療育なども行う。その中で、就学に向けて身につけておきたい「見る」「聞く」「話す」のスキルや、作業スキル、外出スキル等を学んでいけるよう支援を行う												
営業時間		9	時	00	分	から	18	時	00	分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	・個々の障害特性や家庭状況に応じた生活リズム(食事、排泄、着脱、睡眠、遊びなど)の提案を行う ・必要に応じて医療受診、服薬の提案を行う												
	運動・感覚	・運動機能、感覚特性(過敏、鈍麻等)の把握を行い、子ども一人ひとりに応じた支援方法を提案する ・押す、引っ張る、飛ぶ、くぐる、転がるなどの粗大・協調運動、つまむ、切る、貼る、描く、はめるなどの微細運動に取り組むための環境を設定する												
	認知・行動	・障がい特性を含めた認知発達をアセスメントツールや観察の中で把握し、発達段階に応じた個別の課題(視知覚、操作性、言語等)を設定する ・机上活動では、得意な力を基盤に、一定時間集中する力や「できた!」という達成感を得られる設定と関わりを行う ・子ども一人ひとりの理解の仕方、認知発達に合わせた視覚支援、構造化を行う ・今できていることに肯定的な注目をし、行動の強化を行う(ティーチャーズ・トレーニング)												
	言語 コミュニケーション	・子どもの理解に応じた指示を行い、行動できたときは肯定的な注目をする ・子ども一人ひとりに応じたコミュニケーション方法を探し、自分から伝える力を伸ばす(言葉、ジェスチャー、PECS【絵カード交換式コミュニケーションシステム】など)												
	人間関係 社会性	・遊びの中で、大人と一緒に1対1のやりとりから始め、社会性の芽生えをサポートする。また、保護者にも子どもに応じた遊び方をレクチャーする ・子どもの社会性の発達段階に応じて、個別療育、小集団療育を設定し、他者とのコミュニケーションスキルや集団スキルを身につけられるよう支援する												
家族支援		・療育中に、子育てに関する相談支援、特性について共有し子育てサポートを行う ・必要に応じて、関係機関と支援会議の開催や情報共有を行う ・希望に応じて定期的な集団セッション(ペアレント・トレーニング、ペアレント・プログラム)または個別面談を行い、日々の子育てサポートを行う					移行支援			・就学時の情報提供書作成や支援会開催、担当者会への出席				
地域支援・地域連携		・支援会議や情報提供書等により、障害特性の理解それにおける支援方法への共通認識、家族を含めた役割分担を行う ・所属機関や関係機関、必要に応じて医療機関や児童相談所との情報連携も行う ・近隣の公園、店舗などへの外出支援					職員の質の向上			・利用者のニーズに応じた良質なサービスを提供するために、スタッフの技術・能力(コミュニケーション能力、協調性、問題解決能力、マネジメント能力、アセスメント能力、専門的知識やスキル)の向上に努める ・PDCAサイクルに応じた評価、実践を共通して行う ・事業所全体で取得している資格等の専門性を高め、他職種との連携を図る				
主な行事等		・懇親会(年1回) ・お子さんの成長に合わせて外出体験、調理体験など												